

提言

新政権に期待する 安心・安全・安泰な日本のかたち

この号が出る頃には、日本の新たなリーダーが決まっているはずですが、そのリーダーにお願いしたいのは、小手先だけの政策を語るのではなく、この国のあるべき形、この国の行方をきちんと語っていただきたいということです。

新たに就任される日本の政治のトップ、そして経済界に期待するのは、この国の目指すべき道、環境技術立国を実現するためには、先刻のモーリシャスにおけるタンカー座礁事故について、日本の政府が、そして環境大臣がきちんとした対応を行うことこそ大切なのではないのでしょうか。日本が率先して流出した重油の徹底的な処理・回収を行い、さらに環境の保護に取り組む姿を世界に示さなければなりません。日本の科学技術を駆使して汚染の広がりを最小限に食い止め、美しいモーリシャスの環境を守ることこそ、我が国が環境立国を目指す上での大切な出発点になるのではないのでしょうか。

そのためにも小泉進次郎環境大臣には、一刻も早く現地に赴き、実態を把握するとともに世界を納得させるコメントを発表していただきたいと願っています。

さらに日本という国のあるべき形を問う時に、税と社会保障の一体改革は避けて通れない道であるはずですが。

新内閣が1日も早く国会を開催し、この国の税財政を国民に正しく伝え、さらには新型コロナウイルス感染症の第2波、第3波に対する国の取り組みと対応を講じることは、避けて通ることのできない道であるはずですが。

新型コロナウイルス感染症に真正面から取り組み、国民の安心・安全、そして命を守ることに取り組んでいただきたいと願っています。

海外に任せず、日本国内でも新型コロナウイルスのワクチンの開発を推進し、新型コロナウイルス感染症とともにある未来を提示していただきたいと思います。

そして2021年の7月23日、世界のアスリートたちが安心して東京で開催されるオリンピック、パラリンピックに出場することができるように、国際的に日本の安心・安全を示すことができるようにしていただきたいと思います。

新政権には、ぜひ安心で安全で安泰な未来をお示しいただき、日本のあるべき姿を実現していただきたいと期待します。

本誌主幹 大中 吉一